

博物館に初もうで……253

2022年は東京国立博物館創立150年記念の年です……3

特別展 Information

「ユネスコ無形文化遺産 特別展 体感! 日本の伝統芸能

— 歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界 —」

「特別展 ポンペイ」 「特別展 空也上人と六波羅蜜寺」

「沖縄復帰50年記念 特別展 琉球」……455

「特集 日本人に愛された華南のやきもの」

「特集 没後700年 趙孟頫とその時代——復古と伝承——」

「特集 全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝『医心方』の世界」

「特別企画 沖縄県立博物館・美術館
琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展 『手わざ——琉球王国の文化——』」……657

総合文化展 Pick Up! (本館/東洋館/平成館/法隆寺宝物館/黒田記念館)……89

トーハクの調査研究⑭……9 / 本館展示案内(2階:日本美術の流れ, 1階:ジャンル別展示)……1013

みどりのライオン(教育普及事業)……13 / イベント&インフォメーション……1415

東京国立 博物館 ニュース

展示と催し物案内
第767号2021-2022
12.1.2

「梅花文印櫃」

表紙の名品

裏表紙に
掲載してるわよ!



おめでたい名品と新春イベントでお正月を祝う



博物館に初もうで

新春恒例「博物館に初もうで」では、千支にちなんだ作品の特集や、お正月らしい吉祥作品の数々をご覧ください。また、お正月ならではのイベントも開催！ 日本文化の美しさにふれ、心和む新年をお迎えください。

2022年
1月2日(日)
～
1月30日(日)

入館はオンラインによる
事前予約(日時指定券)
を推奨しております。

1月2日(日)、3日(月) 限定で当日のみ有効の日時指定券(9:30～12:30、12:30～16:30)を若干枚数、正門にてお配りいたします。ただし、開館後早々に予定枚数が終了となる可能性があります。配布終了後、「日時指定券」をお持ちでない方はご入場いただけません。

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

特集

「博物館に初もうで 今年はトーハク150周年! めでタイガー!!」

本館 特別1室・特別2室

東京国立博物館
公式キャラクター

トーハクくん



ユリノキちゃん

勇ましい、
かわいい、
さまざまな
虎が集まる!

令和4年の千支である「寅」にちなみ、日本はもちろん、東アジアから南アジアまで、虎を表した作品に注目します。虎は、古代より悪霊を退ける動物として、また、すぐれた武勇を示すイメージとして、多くの作品に登場してきました。さらに江戸時代には、博物学的な視点からリアルな写生図も残されるようになりました。一方、東南アジアや南アジアの虎に目を向けると、身体の特徴や色使いなど、日本のものとは一味違ったユニークな表現を見ることができま。今年は、東京国立博物館創立150年の記念すべき年にあたりま。皆様と当館のさらなる未来へ向けて、さまざまな虎たちがにぎやかに新年をお祝いします。
(沼沢ゆかり)



龍虎図屏風 曾我直庵筆 安土桃山～江戸時代・17世紀

竹林から現れた虎の姿を描きます。画面から飛び出てきそうな迫力です

(左隻)



博物館写生図(虎皮) 江戸～明治時代・19世紀

写生図には虎皮のサイズがメモされており、鼻先から尾までは2m50cmほどです



(部分)



黒楽鶴電文茶碗

仁阿弥道八作 江戸時代・19世紀
本館8室 2022年1月2日(日)～
3月21日(月・祝)



小袖

白縷子地梅樹竹垣模様

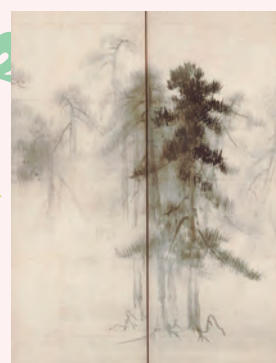
江戸時代・18世紀
本館10室
2022年1月2日(日)～
3月6日(日)

梅 松

竹

色絵松竹梅文瓶

伊万里 江戸時代・17世紀
本館8室
2022年1月2日(日)～
3月21日(月・祝)



(部分)

●松林図屏風(→10ページ)

長谷川等伯筆
安土桃山時代・16世紀
本館2室
2022年1月2日(日)～
1月16日(日)

色とりどりの
吉祥モチーフ

本館

展示室で探そう!

蘆亀蒔絵印籠

底裏金蒔銘「古満直政造」
江戸時代・19世紀
クインシー・A. ショー氏寄贈
本館10室
2022年1月2日(日)～
3月6日(日)

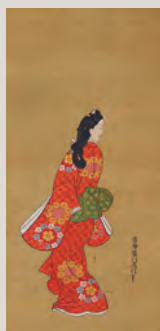




1872年からスタートした東京国立博物館の歴史は150年を数え、来年新たな一歩を踏み出します。2022年4月から2023年3月まで年度を通して総合文化展内での記念特集や記念の特別展、コラボアイテムの販売などさまざまな創立150年記念事業を行います。ぜひ記念すべき年の博物館にご注目いただき、ともに愛する博物館を盛り上げていきましょう！

総合文化展 創立150年記念特集

本館を中心に記念の年ならではの企画を1年にわたり館内のいたるところで開催します。これまであまり展示する機会がなかった絵画、工芸などの「逸品」も登場、コレクション新発見のチャンスです。



見返り美人図

菱川師宣筆
江戸時代・17世紀

また、来年度、本館2室 国宝室では、研究員が選ぶ「未来の国宝」と題し、未指定の名品や研究員のイチオシをご紹介します。

東京国立博物館創立150年記念 特別展 「国宝 東京国立博物館のすべて」

会期中に当館所蔵の国宝全89件を展示するほか、東京国立博物館の歴史をふり返り所蔵の名品を十分に堪能いただく内容です（詳しくは次号以降をお楽しみに）。

創立150年記念ロゴマーク



このロゴマークは、当館の建物や所蔵品に使われている「唐草文」をモチーフにデザインしています。東京国立博物館をプラットフォームにして、多種多様な人々に文化を広げていく姿勢を表現しています。

ロゴを使用したグッズも検討中です。

2022年は東京国立博物館創立150年記念の年です

新春イベント

◆いけばな

2022年1月2日(日)～16日(日)
正門、本館玄関、本館大階段
真生流 山根由美氏

◆TNM & TOPPAN ミュージアム シアターよりプレゼント

2022年1月2日(日)・3日(月)
VR作品を鑑賞された方にはプレゼントがあります。
※鑑賞には別途料金および当日の予約が必要です。
※コンテンツ等の詳細はウェブサイト
(<http://www.toppa-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

◆ミュージアムショップからお年玉

2022年1月2日(日)・3日(月)
当館の全ミュージアムショップで合計3,000円(税込)以上お買い上げのお客様にミュージアムショップのグッズをプレゼントします。(両日ともなくなり次第終了。当館の全ミュージアムショップでのお買い物が対象、引き渡しは本館ミュージアムショップでのみ対応)
※例年行っておりまして美術図書バーゲンセールは、今回中止といたします。

◆ホテルオークラレストランゆりの木 では割引を実施

2022年1月2日(日)・3日(月)
ゆりの木で税込5,000円以上ご利用のお客様は、お会計から10%分をお引きいたします。

◆寛永寺根本中堂特別参拝

2022年1月2日(日)・3日(月) 10:00～15:00
根本中堂、四天王像などを公開します。

※混雑緩和のため、例年1月2日、3日に実施しておりますカレンダーの配布および先着順の特典はございません。あらかじめご了承ください。

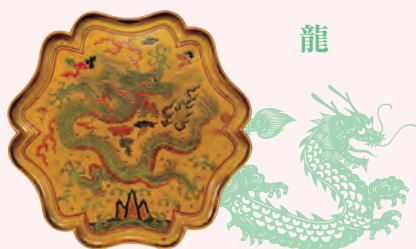
うるし え が じょう 漆絵画帖

柴田是真筆 明治時代・19世紀
名工・是真が漆で描く絵画。洒脱な画面に冴えた技量が見られます



じん ぽ おり
陣羽織
しろ じょう ふう くらん じ たら も ふう かき
白呉服連地虎模様描繪

江戸時代・19世紀 アンリー夫人寄贈
武士が鎧の上に着用する上着。大胆な虎の描繪はサムライ魂を表しています



龍

りゅうとうぞんせいりん か ほん 龍濤存星輪花盆

中国 清時代・康熙年間(1662～1722)
東洋館9室 2022年1月2日(日)～4月3日(日)



孔雀

らいふくかざ ぼたんてんじやうもんよう ししゅう 礼服飾り牡丹孔雀文様刺繍

中国 清時代・19世紀
東洋館5室 2022年1月2日(日)～4月3日(日)

東洋館

たかさんすい ず びょう ぶ ○鷹山水図屏風(→10ページ)

雪村周継筆 室町時代・16世紀
松永安左工門氏寄贈
本館3室 12月21日(火)～
2022年1月30日(日)



しんねん する が ちゅう 新年の駿河町

鳥居清広筆 江戸時代・18世紀
本館10室 2022年1月2日(日)～
1月30日(日)

鷹

富士山

ユネスコ無形文化遺産 特別展

「体感！日本の伝統芸能」

—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—

表慶館 2022年1月7日(金)～3月13日(日)

本展の見どころのひとつが、展示室内に原寸大に近い大きさで再現される各芸能の舞台装置(大道具)です。歌舞伎の舞台は、『金門五山桐』より、石川五右衛門の「絶景かな、絶景かな」の名台詞で有名な「南禅寺山門」の場面です。絢爛豪華な舞台に実際に上がって、華やかな衣裳や髪を間近で鑑賞できます。組踊では、創始者・玉城朝薫による代表作「朝薫五番」のひとつ『銘苅子』の舞台が再現されます。南国情緒あふれる色彩感の紅型衣裳だけでなく、登場人物の心情を切々と歌いあげる歌三線の音楽による演出も聴きどころです。文楽、能楽、雅楽とも、各展示室に臨場感あふれる舞台を再現して、それぞれの芸能の世界がまるごと体感できる展示空間になっています。実際の舞台で使用される衣裳や楽器、小道具等の展示とあわせて、伝統芸能ならではの魅力をお楽しみください。

歌舞伎『金門五山桐』南禅寺山門の場

石川五右衛門(八代目中村芝翫(上演時は橋之助))

歌舞伎の展示室では絢爛な「山門」のシーンをまるごと再現します

はしりまい げんじようらく
走舞『還城楽』

左方(宮内庁式部職楽部)

雅楽の展示室では、宮内庁式部職楽部で実際に使用されている装束を間近にみるができます

くみどり め かるしー
組踊『銘苅子』

天女(宮城能鳳)

組踊の展示室では色鮮やかな羽衣をまとった「銘苅子」の舞台を再現します



※画像は再現舞台のイメージ

観覧料金：一般1,500円、大学生1,000円、高校生600円 / 展覧会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/dentou2022/>

特別展「ポンペイ」

平成館特別展示室 2022年1月14日(金)～4月3日(日)

紀元後79年にヴェスヴィオ火山の噴火により、一夜にして失われたローマ帝国の都市ポンペイ。本展では街や建物を飾った壁画や彫像の数々に加え、ポンペイの街に暮らした様々な人々に焦点を当てているのが特色です。古代ローマといえば華やかな宴会を催した上流階級の人々がまず思い浮かびます。しかしいっぽうで当時活躍した女性や、奴隷身分から解放されて市民の地位を得た人物もあり、身分や立場の上下が必ずしも固定されていない社会であったことに注目します。そして当時の暮らしや仕事で使われた生活雑貨や道具の数々を通じ、実際にポンペイに生きた人々の息吹に触れます。会場の後半では遺跡内の邸宅を一部再現し、家の設えとしてどのように壁画や生活調度が使われていたかを体感していただけるよう趣向します。ナポリ国立考古学博物館の全面的な協力を得て、多くの優品により豊かな街の姿と活気ある市民生活がよみがえります。

(山本亮)

書字板と尖筆を持つ
女性(通称「サッフォー」)ポンペイ出土
ナポリ国立考古学博物館蔵
詩人風の女性。サッフォーの愛称で親しまれています

辻音楽師

ポンペイ出土
ナポリ国立考古学博物館蔵
フルート、シンバル、太鼓で囃す旅回りの楽団を描いたモザイクです

踊るファウヌス

ポンペイ出土
ナポリ国立考古学博物館蔵
ポンペイ随一の邸宅、「ファウヌスの家」のシンボルです観覧料：一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円 / 展覧会公式サイト <https://pompeii2022.jp/>

特別展

「空也上人と六波羅蜜寺」

本館特別5室 2022年3月1日(火)～5月8日(日)

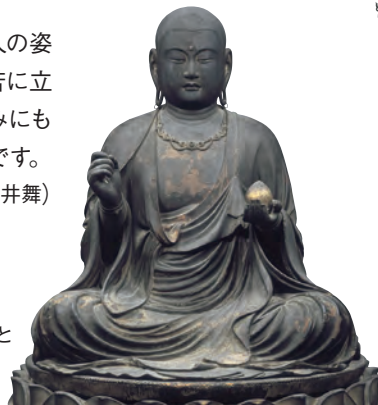
開いた口から小さな仏像が出ている僧侶の像を見たことがある人も多いでしょう。像主である空也上人は、平安時代の半ばに「市聖」と呼ばれ、市井の人々から絶大な信仰を集めた僧でした。天曆五年(951)、京都に疫病が蔓延したため、上人は世の中の平安を祈って十一面観音菩薩立像を造像し、西光寺を創建しました。これが現在の六波羅蜜寺にあたります。本展では、東京での公開が半世紀ぶりとなる空也上人立像をはじめ、創建時の四天王立像、定朝作と伝えられる地蔵菩薩立像など、平安から鎌倉時代にかけての彫刻の名品が一堂に集います。

人々の心の安寧を祈った空也上人の姿と六波羅蜜寺の美術を通して、困苦に立ち向かった当時の人々の信仰の厚みにも思いを馳せていただけたら幸いです。

(皿井舞)

◎地蔵菩薩坐像

運慶作 鎌倉時代・12世紀
京都・六波羅蜜寺蔵
運慶初期の作。像内にはぎつりと文書が納められています



◎地蔵菩薩立像

平安時代・11世紀
京都・六波羅蜜寺蔵
地獄からよみがえった源国孝という人が仏師定朝につくらせました



◎空也上人立像

康勝作 鎌倉時代・13世紀
京都・六波羅蜜寺蔵
写真：城野誠治
運慶の四男康勝作。頬がこけた瘦身の体つきが実にリアルです



展覧会公式サイト <https://kuya-rokuhara.exhibit.jp/>

観覧料金は決まり次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。

沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」

平成館特別展示室 2022年5月3日(火・祝)～6月26日(日)

令和4年(2022)、沖縄県は復帰50年を迎えます。かつて琉球王国として独自の歴史と文化を有していた沖縄は、明治以降の近代化や先の戦争を乗り越え、その歴史と文化を未来につなげる努力を続けてきました。本展は、アジアにおける琉球王国の位置づけに注目し、特色ある歴史を琉球・沖縄ゆかりの文化財から紐解きます。そして、首里城は、国内外の多くの人びとの力によってふたたび復興への歩みを進めています。琉球王国時代のシンボル首里城にまつわるこれまでの貴重な研究成果と、復興を支えるモノづくりの技術もあわせてご紹介します。

(三笠景子)

◎玉冠(付簪)

冠：明時代・17世紀 簪：第二尚氏時代・17～18世紀
沖縄・那覇市歴史博物館蔵
展示期間：2022年5月3日(火・祝)～5月15日(日)
国の重要な儀式にのみ用いられた正装用の玉冠。7種類の玉で飾られています



◎銅鐘 旧首里城正殿鐘(万国津梁の鐘)

藤原国善作 第一尚氏時代・天順2年(1458)
沖縄県立博物館・美術館蔵
海上国家として栄える琉球を謳った銘文に因み、「万国津梁の鐘」と親しまれています



◎黄色地鳳凰蝙蝠宝尽 青海波立波文様紅型 綾袷衣裳

第二尚氏時代・18～19世紀
沖縄・那覇市歴史博物館蔵
展示期間：2022年5月17日(火)～5月29日(日)
中国の官服に見られる格式高いデザイン。若い王族用の衣裳です

展覧会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/ryukyu2022/>

観覧料金、入館方法等の詳細は、今後展覧会公式サイト等でお知らせします。

特集

日本人に愛された
華南のやさきもの

本館14室 12月21日(火)～2022年2月20日(日)

華南からの影響が垣間見える煎茶碗

色絵詩文煎茶碗

青木木米作 江戸時代・文政7年(1824)

福建で焼かれた呉州手の特徴をそなえた小碗。
木米の技が光る逸品です

ビビッドな緑釉が印象的

華南三彩五耳壺

中国 明時代・16～17世紀

色鮮やかな三彩。伝世品は多く、戦国期の遺跡からの出土も知られています



「華南」とは現在の中国福建および広東一帯を指します。この地域は貿易港を擁する地の利を活かし、宋から清時代の長きにわたって陶磁器を生産し、海外へ輸出しました。その製品は良質な龍泉窯(浙江)や景德鎮窯(江西)などの模倣品でしたが、民窯(民間の窯)ならではの力強い造形とおおらかな装飾が魅力です。とりわけ日本では、上流階級層の生活文化を支える食器や貯蔵器として、さらに茶湯道具や煎茶道具としても親しまれ、江戸後期には京焼陶工による写しの題材にもなりました。本特集では、日本における陶磁器研究史をたどりながら、華南のやさきものの魅力と、日本人の美意識に与えた影響をご紹介します。

(三笠景子)

つやめく釉の表情が見どころ

唐物文琳茶入 銘 宇治

中国 南宋～元時代・13世紀 松永安左工門氏寄贈

華南で焼かれた小さな茶色の小壺が、茶の湯の世界で高い評価を与えられました

かすれを巧みに取り入れた
画法に注目

竹石図軸

趙孟頫款

中国 元時代・14世紀

展示期間:
2022年1月2日(日)～
1月30日(日)

墨線のかすれの美しさを意識したこの作品は、書の筆法を画にも応用した趙孟頫の画風を伝えています



元時代(1271～1368)に活躍した呉興(浙江)の趙孟頫(1254～1322)は、宋の皇族出身でありながら、異民族王朝の元に仕官しました。この複雑な境遇にあつて、趙孟頫は漢民族の伝統文化の護持に尽力します。なかでも書画は、王羲之を主とする晋唐の書法と唐宋の画法を規範とした復古主義を唱導し、当代のみならず明清時代の諸家にも多大な影響を与えました。

2022年は、趙孟頫の没後700年にあたります。台東区立書道博物館との連携企画第19弾として開催する本特集では、趙孟頫をはじめとする元時代の書画に焦点をあて、その魅力と後世における受容を紹介します。書画に託した人々の想いを感じていただけますと幸いです。

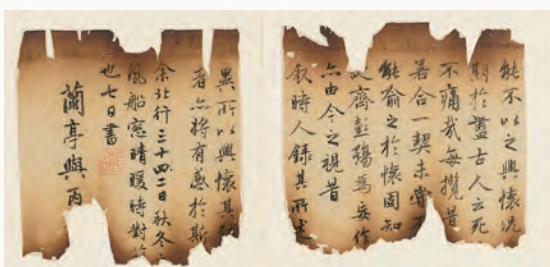
(六人部克典)

趙孟頫の王羲之崇拜を伝える名帖

独孤本定武蘭亭序並 蘭亭十三跋

趙孟頫筆、原跡：王羲之筆 中国 元時代・至大3年(1310)、
原跡：東晋時代・永和9年(353) 高島菊次郎氏寄贈

趙孟頫は「蘭亭序」の拓本を愛蔵し、王羲之風の典雅な字姿で識語と臨書を添えました



(部分)

特集

没後700年
趙孟頫とその時代
—復古と伝承—

東洋館8室 2022年1月2日(日)～2月27日(日)

関連イベント 事前申込制

連携講演会

「没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—」

日時：2022年2月5日(土)

13:30～15:00 (13:00開場予定)

講師：富田淳(副館長)、鍋島稲子(台東区立書道博物館主任研究員)、植松瑞希(出版企画室研究員)、六人部克典(東洋室研究員)

会場：平成館大講堂

申込締切：12月16日(木)

申込方法などの詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

同時開催

特別展 没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—

台東区立書道博物館

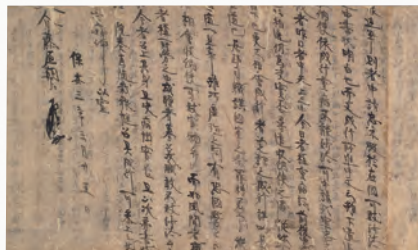
2022年1月4日(火)～2月27日(日)

紙背文書が書写された年代推定 の手がかりに

●「医心方」巻第二十五の一 小児部

丹波康頼撰 平安時代・12世紀

巻第25の紙背文書。保安3年(1122)作成の文書を転用しています



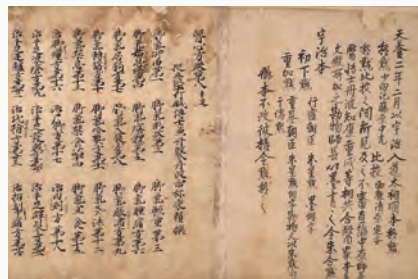
(部分)

本巻の来歴を伝える貴重な文書

●「医心方」巻第八 手足部

丹波康頼撰 平安時代・12世紀

巻頭の文書から、天養2年(1145)にこの写本が比較・点検されたことがわかります



(部分)

「医心方」は、現在では失われた隋・唐以前の中国古医書を多く収録します。まさに古代東洋医学の知識の宝庫といえます。また本写本の紙背には多くの文書を持ち、日本古代史研究にとっても貴重な作品です。

このたび、全30巻1冊からなる「医心方」は5年に及ぶ修理を終え、健康なからだになりました。古代の人々が直面した疾病、その医療活動の一端をご紹介します。(富坂賢)

唯一挿絵が入った巻

●「医心方」巻第二十二 婦人部

丹波康頼撰 江戸時代・17世紀

医心方唯一の挿図。妊娠月数別の諸注意と鍼灸の禁忌などを記しています



(部分)

特集

全巻修理完了記念 日本最古の 医学書・国宝「医心方」の世界

本館特別1室・特別2室 2022年2月8日(火)〜3月21日(月・祝)

特別企画

沖縄県立博物館・美術館
琉球王国文化遺産集積・
再興事業 巡回展

手わざ

琉球王国の文化

平成館 企画展示室

2022年1月15日(土)〜3月13日(日)

かつて沖縄は琉球王国であり独自の文化と歴史を有していました。本展は、その琉球王国にまつわる選りすぐりの模造復元品を紹介します。

「手わざ」とは、作品を製作する手仕事の高度な技術を意味します。沖縄県立博物館・美術館が平成27年度より行ってきた琉球王国文化遺産集積・再興事業では、明治以降の近代化や沖縄戦で失われた文化財とその製作技術の復元に努めてきました。この事業で完成した作品は、絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線に至る8分野と多岐にわたり、携わった専門家、技術者は県内外100人以上にものぼります。

沖縄復帰50年を迎える令和4年(2022)、王国文化とそれを守り伝えてきた人々の努力を見つめていただく貴重な機会となれば幸いです。(三笠景子)

御玉貫

製作者：上原俊展(金細工まつ)、
高田明(公財)美術館
製作年：平成30年度
沖縄県立博物館・美術館蔵

錫製の瓶の上から飾玉をあしらった酒器で、編み込まれたガラス玉はあえて不揃いのものを使用していたことがわかりました



異なる玉の形が
美しく見せる秘密

面取網代文三彩抱瓶

製作者：田里博・山田聡・島袋克史・
金城宙矛(沖縄陶磁器研究会)
製作年：令和元年度
沖縄県立博物館・美術館蔵

抱瓶は泡盛を入れる酒器です。本作品は全体的に薄くシャープな造形と、三彩のように流れる釉薬、リズムミカルな象嵌が特徴です



多彩な装飾技法を忠実に再現

朱漆巴紋沈金御供飯

製作者：高良輝幸(木の工房 李陽)、
諸見由則(株)漆芸工房)、
前田貴子・前田春城
(琉球漆紀行)、宇良英明

製作年：平成30年度
沖縄県立博物館・美術館蔵
展示期間：2022年2月22日(火)
〜3月13日(日)

御供飯とは、王家が祭祀に用いた道具。長い時代を経た伝世品にはみられない輝きを放っています



つくられた
当初の輝きを
現代に伝える

※一部原資料も展示します。



Pick up!

本館

昔から親しまれてきた
お正月の遊び

羽根付図

2022年1月2日(日)～1月30日(日)

10 室 浮世絵と衣装―江戸(浮世絵)



羽根付図 磯田湖龍斎筆 江戸時代・18世紀

磯田湖龍斎は、鈴木春信没後の浮世絵界をリードした絵師のひとりで、美人画を描くことを得意とし、安永・天明年間(1772～89)を中心に江戸で活躍しました。

注連縄の張られた対の門松の前で、羽根突きを楽しむ女性たち。向かって左には孔雀の羽模様の振袖を着た若い娘が、右には留袖の既婚女性が描かれています。ふたりの間で羽根を指差し元気にはしゃぐ子どももかわいらしいですね。画面右下にある落款に「応需」と書かれていることから、この作品は特別注文によって制作されたものとわかります。新年の床の間を飾るに相応しい、華やいだ雰囲気漂う繊細な作品です。

(大橋美織)

本館

謎深い琵琶の音色に
思いを馳せる

琵琶銘大虎

2022年2月20日(日)

12 室 漆工



琵琶銘大虎 鎌倉時代・13世紀

学生の頃、寮にあった共用自転車は「エンペラー」と呼ばれていました。由来は不明ですが、とにかく深い愛着がもたらした「銘」といえるでしょう。器物の銘は、そのものが数ある同種の中でも特別な存在であることを意味します。平安時代の説話集『江談抄』には、特に楽器類に多彩な銘が付けられていたことが記録されており、当時賞玩された雅楽の楽器は「ただの道具」ではなかったことがよくわかります。琵琶の銘は撥面に描かれた絵に由来することが多いですが、本作品には何の痕跡も残っていません。革が張り替えられたか、あるいは虎を思わせる音色だったか。本作品の由来も不明のままです。

(福島修)

東洋館

小さくてもしっかりと
墓を守ります

加彩鎮墓獸

2022年3月21日(月・祝)

5 室 中国 墳墓の世界



加彩鎮墓獸 中国 西晋時代・3～4世紀 横河民輔氏寄贈

後ろ脚で地を蹴り、いまにも突進する構えをみせています。鎮墓獸とは、墓への侵入を防ぐかのように入付近くに置かれた猛獣系の模型のことです。猛獣とはいえ両手で抱えられるほどに小さいため、鎮墓獸が対峙していたのは生身の人間ではない何か別の存在であったと推察されます。魏・蜀・呉の争いに終止符を打った西晋王朝は、墓づくりや副葬品を簡素にするなど、緊縮財政プランを掲げて社会の安定化を目指しました。本作品もまたきわめて素朴ではありますが、一方で迫真の造形であることが示すように、死者の安寧という普遍的な価値観に揺らぎが生じることはありませんでした。

(市元皇)

東洋館

紫禁城でも使用された優品

雲龍填漆托

2022年1月2日(日)～4月3日(日)

9 室 中国の漆工



雲龍填漆托 「大清乾隆年製」銘 中国 清時代・乾隆年間(1736～95)

茶碗を置くための台。高台という脚部の上に花弁形をした羽が広がり、その上に酸漿という茶碗の置き場所があります。高台のなかには金字で「大清乾隆年製」と刻銘されています。器体には、朱漆を厚く塗り重ねて、そこに文様を彫り、黒・朱・黄・緑・茶色の漆を嵌め込んで龍や雲が表されています。日本では漆を塗料のような平面的な素材として用いる傾向がありますが、中国では漆を彫刻できる立体的な素材としても用いることもあります。

雲龍の配置を観察すると、龍は酸漿と羽の上面に表され、羽の下面や高台には表されていないことに気がきます。龍が雲の上を駆ける様子を表現する工夫でしょう。

(猪熊兼樹)

Pick up!



磨製石戈

弥生時代(中期)・前2～前1世紀
群馬県富岡市富岡銅川河床出土
和田千吉氏・上田八枝子氏寄贈

戈は、柄に対し刃部を直角につけ使用する武器です。古代中国に起源をもち、「戈」が「戦」という字の一部であることから、当時の中国では一般的な武器であったことがうかがえます。

日本列島では、弥生時代に青銅製の銅戈が武器やマツリの道具として生産されるようになります。これと並行して当時の人々は、土や石、木などの様々な素材に青銅器の形や意匠を写した祭器をつくりだしました。本作品もそうした祭器のひとつで、石で銅戈をまねてつくられています。新しい金属器の文化を、身近な生活素材であった石に取り入れる、弥生時代の人々の柔軟さを示す一品です。

(菊池望)

平成館

身近な素材で模した
日本独自の石器

磨製石戈

通年展示

考古展示室

法隆寺宝物館

むちむちした体と
可愛い姿に注目!

御所人形

2022年1月2日(日)～3月27日(日)

第4室 木・漆工―近世の工芸

御所人形
江戸時代・19世紀



法隆寺
献納宝物
に御所人形? と驚かれるかも知れませんが、1400年の歴史を誇る法隆寺の宝物には江戸時代の作品も伝えられています。この御所人形は、文化年間に仙洞御所より奉納されたと伝えられるもの。調べてみると文化10年(1813)には仙洞御所に住まわれた後桜町天皇が崩御されているため、これは御遺品だったのでしよう。脚を投げ出してすわる御所人形のポーズを「くるい」といい、このお人形は金の冠を被り、手に軍配を持った「天下取り」の姿をしています。まるまると肥えた赤ん坊をモデルとした御所人形は、子どもの健康で健やかな成長を祝う晴れやかな雰囲気

に富んでいます。
(三田寛之)

黒田記念館

この素描でしか見られない
ポーズ

昔語り図画稿
(草刈り娘の顔)

2022年2月6日(日)

黒田記念室



昔語り図画稿(草刈り娘の顔)
黒田清輝筆 明治29年(1896)

無心なのか、憂いを含むのか、陰影ある表情が目を引きまします。肩越しに振り返るポーズは、群像表現による大作「昔語り」(焼失)の中で、画面の端を通り過ぎつつ中央の人々に目を向けるという「草刈り娘」の立ち位置を示しています。

同じ少女の全身像を描いた別の素描では、左手の指先はより深く折り曲げられています。背負い紐を握るしぐさとしてはその方が自然にも見えますが、残された写真から判断すると、完成作では、この素描と同様に、手を胸元にあてるように指先をやや伸ばしたポーズが採用されました。

(東京文化財研究所・吉田暁子)

地道な調査と基礎研究が
新たな知見につながる

トーハクの調査研究 ⑭

博物館の重要な使命のひとつである
「調査研究」。その一端をご紹介します。

考古学の調査研究では、フィールドワークも重要な活動です。特に、西アジアやエジプトなど、世界中の研究者と競合する分野で、新たな歴史を解明するには、学術発掘で得られる新資料が物をいいます。そんなわけで、この15年ほどの間、イスラエルにある都市遺跡テル・レヘシュの発掘プロジェクトに参画しています。目下、取り組んでいるテーマは、青銅器時代末期の都市国家の盛衰を解明すること。複雑に積み重なる遺構、大量の遺物を一つひとつ読み解き、地道に歴史を復元します。コロナ禍に見舞われ、フィールドに出ることができない日々ですが、この時間を利用して、これまでに発掘された膨大な資料と格闘し、出版することに尽力しています。

(小野塚拓造)



テル・レヘシュのD6地区。前3300～前700年にかけて構築された遺構と土層が2000以上も折り重なる難解な3Dパズルです。

4

茶の美術

-12/25(土)**狂言袴茶碗 銘 浪花筒**朝鮮 伝千利休所持、鴻池家伝来
朝鮮 朝鮮時代・17世紀

象嵌であらわされた丸文が、狂言の袴の文様に似ているとされる高麗茶碗です

**2022/1/2(日)-3/21(月)・祝****一重口水指 銘 柴庵**信楽 安土桃山～江戸時代・16～17世紀
広田松繁氏寄贈

3-3

禅と水墨画

鎌倉～室町

12/21(火)-2022/1/30(日)**鷹山水図屏風**雪村周継筆 室町時代・16世紀
松永安左工門氏寄贈

(左隻)

2022/2/1(火)-3/13(日)**山水人物図屏風**伝賢江祥啓筆 室町時代・16世紀
山水景観のなかに遊ぶ中国の高士たち。当館初公開となる屏風です

(右隻)

5

4

3-3

3-2

3-1

1-1

1-2

2

案内 2階 流れ

3-2

宮廷の美術

平安～室町

**2022/1/2(日)-1/16(日)****古今和歌集(元永本)下帖**平安時代・12世紀 三井高大氏寄贈
孔雀を雲母摺(きらず)りした料紙に恋を詠った和歌が書写されています**2022/2/1(火)-3/13(日)****後三年合戦絵巻 巻上**飛騨守惟久筆
南北朝時代・貞和3年(1347) (部分)

3-1

仏教の美術

平安～室町

12/21(火)-2022/1/30(日)**兜率天曼荼羅図**

南北朝時代・貞和4年(1348)頃



(部分)

2022/2/1(火)-3/13(日)**仏涅槃図 鎌倉時代・14世紀**仏教の開祖・釈迦が亡くなる場面を描いた図。
報恩(ほうおん)のための法要で用いられました

1-1

日本美術のあけぼの

縄文・弥生・古墳

-12/25(土)**袈裟褌文銅鐸**弥生時代(後期)・1～3世紀
兵庫県川西市
加茂1丁目15番地出土
佐伯捨吉氏寄贈**2022/1/2(日)-7/3(日)****三角板革綴短甲**古墳時代・5世紀
徳島市八万町
恵解山2号墳出土
胴を守る鉄製の防具で、ヤマト王権の鍛冶工房で制作されました

1-2

仏教の興隆

飛鳥・奈良

-2022/4/24(日)**銅三鈷鏡**

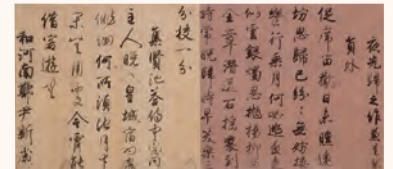
奈良～平安時代・8～9世紀

**12/21(火)-2022/4/24(日)****菩薩半跏像**飛鳥時代・7世紀
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町
那智山出土
北又留四郎氏他2名寄贈

片脚を組み思案する姿の菩薩像は、日本では多く弥勒菩薩として信仰されました

2

国宝室



(部分)

-12/25(土)**白氏詩巻**

藤原行成筆 平安時代・寛仁2年(1018)

2022/1/2(日)-1/16(日)**松林図屏風**

長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀



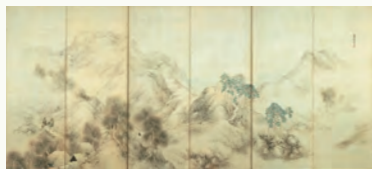
当館のお正月といえはこの作品。今年も期間限定で公開します

(部分)

-12/25(土)**山水図屏風**

呉春筆 江戸時代・18世紀

柔らかく澄んだ光が画面にあふれる、呉春の代表作です



(右隻)

2022/1/2(日)-2/6(日)**十二ヶ月花鳥図屏風**

狩野永敬筆 江戸時代・17世紀

藤原定家の歌に詠まれた12か月の花と鳥を絵画化した、華やかな作品です



(右隻)

7

屏風と襖絵

— 安土桃山・江戸

12/21(火)-**2022/3/13(日)****白糸威胴丸具足**

江戸時代・17世紀

**一の谷馬蘭兜**

安土桃山～江戸時代・16～17世紀

豊臣秀吉ゆかりの兜と伝わり、放射状に広がる飾りが印象的です



5・6

武士の装い
— 平安～江戸**-12/25(土)****火消襦袢****黒木綿地波応龍模様刺子**

江戸時代・19世紀

**2022/1/2(日)-3/21(月・祝)****初音蒔絵源氏筆箱**

江戸時代・18世紀

『源氏物語』の冊子収める筆箱。意匠の主題は新春の場面「初音」です

8-1

暮らしの調度

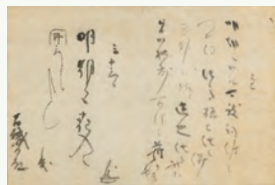
— 安土桃山・江戸

2022/1/2(日)-2/6(日)**雪中老松図**

円山応挙筆

江戸時代・明和2年(1765)

京都で大変人気のあった応挙が、墨の濃淡によって松を立体的に描いた作品です

**2022/2/8(火)-3/21(月・祝)****勘返状**

古田織部・近衛信尹筆

安土桃山～江戸時代・16～17世紀

1枚の料紙に秀吉家臣で茶人の古田織部と能筆近衛信尹の筆が揃います

8-2

書画の展開

— 安土桃山・江戸

12・1・2月

本館展示
日本美術の**-12/25(土)****羽織・着付****浅葱縹子地雪輪****南天模様**

坂東三津江所用

江戸時代・19世紀

高木キヨウ氏寄贈

武将役の日常着として用いられます。刺繍による新春の吉祥模様が華やかです

**2022/1/2(日)-3/6(日)****厚板 浅葱地三崩****鳳凰菱模様**

奈良・金春家伝来

安土桃山時代・16～17世紀

にぎやかな色使いと親しみのある鳳凰の表情が安土桃山時代の雰囲気を与えます

**浮世絵****-12/25(土)****假名手本忠臣蔵・初段**

葛飾北斎筆 江戸時代・文化3年(1806)

『仮名手本忠臣蔵』のはじまりが、遠く富士山を望む広々とした景色を背景に描かれています

2022/2/1(火)-3/6(日)**名所江戸百景・亀戸梅屋舗**

歌川広重筆

江戸時代・安政4年(1857)

手前の梅の木を極端に大きく描く広重得意の構図。ゴッホにも影響を与えました

**衣装****-12/25(土)****小袖 浅葱平絹地****近江八景模様**

江戸時代・18世紀

洒落な描絵友禅で人気の近江八景模様を染めた町の女性の小袖です

**2022/1/2(日)-3/6(日)****小袖 紅綸子地桐樹****鳳凰模様**

旧久留米藩藩士家伝来

江戸時代・18世紀

吉祥である鳳凰は、桐の樹に棲むといわれています



10

浮世絵と衣装
— 江戸

15

歴史の記録

-2022/1/23(日)◎日本沿海輿地図(中国)
中部・近畿

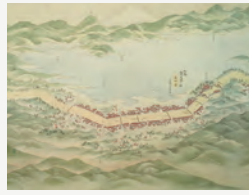
伊能忠敬作 江戸時代・19世紀



(部分)

2022/1/25(火)-3/21(月)・祝◎東海道分間延絵図 平塚、大磯、
小田原、箱根、箱根権現道中奉行所編 浅草文庫旧蔵
江戸時代・文化3年(1806)

箱根の山は天下の嶮。遠望には雪化粧した富士山が望めます



(部分)

14

特集

12/21(火)-2022/2/20(日)「日本人に愛された華南のやきもの」
(→6ページ)

◎青磁鉄絵牡丹文鉢

中国・広州窯
岡野繁蔵、細川護立旧蔵
北宋時代・11~12世紀

◎三彩花鳥文水注

青木木米作 江戸時代・19世紀

中国南方で焼かれた三彩、いわゆる「交趾三彩」
を手本にした木米の技が光る一品です

13-3

陶磁

-2022/1/30(日)

◎色絵飛鳳文隅切膳

奥田頼川作 江戸時代・18~19世紀
大河内正敏氏寄贈やきもので隅切膳を表し、中国の呉州
赤絵風に表現したユニークな一作です**2022/2/1(火)-4/24(日)**

◎色絵花卉文大壺

伊万里(柿右衛門様式)
江戸時代・17世紀

13-2

刀剣

-2022/2/6(日)

◎太刀 三条宗近(名物 三日月宗近)

平安時代・10~12世紀 渡邊誠一郎氏寄贈

天下五剣のひとつとして知られる名刀。三日月形の刃文が名の由来です



◎太刀 長船景光(号 小龍景光)

鎌倉時代・元亨2年(1322)



11

彫刻

-2022/1/30(日)

◎菩薩立像

鎌倉時代・13世紀

清々しい顔つきや鮮やかな彩色に、洗練された美しさを感じられます

**-2022/4/24(日)**

◎大日如来坐像

平安時代・11~12世紀



12

漆工

-2022/2/20(日)

◎御所車蒔絵硯箱 江戸時代・17世紀



◎波兎蒔絵旅櫛笥

江戸時代・17世紀

海上に月が浮かび、月の兎も波を走ります。波間の兎に注目

13-1

金工

-2022/2/27(日)

◎天正菱大判

安土桃山時代・
天正16年(1588)
大川功氏寄贈

幕府により公式につくられた大判で、菱形の極印からこの名があります



◎慶長小判

安土桃山時代・
慶長6年頃~元禄8年(1601?~95)
大川功氏寄贈

みどりのライオン

※掲載されている催し物につきましては、今後、予告なく変更・中止する場合がございます。当館ウェブサイト等でご確認ください。また、動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。

お知らせ

ご自宅等でお楽しみいただけるよう動画を YouTube で配信しています。



東京国立博物館
YouTubeチャンネル

月例講演会

大講堂での実施を再開しました

月例講演会は新型コロナウイルス感染症予防および拡散防止のためYouTube動画で配信しておりましたが、2021年7月より当館の大講堂で実施を再開いたしました。館内でのギャラリートークは当面実施を見合わせますが、ご自宅等でもお楽しみいただけるような動画を引き続き公開いたします。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

※月例講演会は事前申込制です。当館ウェブサイトからお申込みください。定員は通常の半数以下、全席座席指定となります。詳細は各月例講演会の募集案内をご覧ください。

オンライン ギャラリートーク

「岐阜県関市春日神社伝来の能面」

講師：浅見龍介（学芸企画部長）、川岸瀬里（教育普及室研究員）

能面ってどう見たらいいの？ という方に、岐阜県関市春日神社所蔵の能面を例に、名品が名品である理由や科学的調査でわかったことをご紹介します。



「東洋彫刻の動物とヨガ」

講師：増田政史（絵画・彫刻室研究員）、渡辺美保（ヨガインストラクター）

東洋の神話や宗教には様々な動物が登場します。東洋館に展示している東洋彫刻に表された動物を解説し、それに関連したヨガのポーズをご紹介します。



「文人陶工奥田穎川」

講師：今井敦（博物館情報課長）

江戸時代後期の京焼に新たな地平を開いた奥田穎川（1753～1811）の事績について、「文人陶工」と「中国趣味」をキーワードに解説します。



「浅草寺のみほとけの魅力」

講師：西木政統（文化財活用センター企画担当研究員）

雷門で知られる金龍山浅草寺。秘仏本尊である観音像の他にも、数多くのみほとけが伝えられます。特集「浅草寺のみほとけ」（9月28日〈火〉～12月19日〈日〉）の展示作品を中心に、その魅力をご紹介します。



12/7(火)-2022/3/6(日)
ストウ(制裁棒)
せいさいぼう
北海道アイヌ
19世紀
農商務省
北海道事業管理局寄贈
アイヌ社会の公正さを保つため、公の処罰を行うための棍棒です

12/7(火)-2022/1/23(日)
三人弁当
さんにんべんとう
沖縄本島 第二尚氏時代・19世紀

16

アイヌと琉球



12・1・2月

本館展示 ジャンル別

18

近代の美術

12/21(火)-2022/1/23(日)
無我
むが
横山大観筆 明治30年(1897)
「無」という概念を表そうとした新しい日本絵画の表現です

2022/1/25(火)-4/17(日)
黄釉鑄絵梅樹図大瓶
おうゆうさびえばいじゆずたいへい
初代宮川香山作 明治25年(1892)
シカゴ・コロンブス世界博覧会事務局

「冬木小袖」修理プロジェクト 本格修理が進められています

「冬木小袖」は、現在修理工場で解体、表地の補修、新調裏地の検討が行われています。2022年末まで続く修理の状況など、詳細は文化財活用センターウェブサイトでご紹介しています。ぜひご覧ください。

本プロジェクトは、目標金額としていた1,500万円を達成しましたが、引き続き2021年末までご寄附を承っています。目標達成後のご寄附は当館所蔵文化財の修理に充てられます。大切な文化財を未来へつなぐために、さらなるご支援をお願いいたします。



解体作業の様子(撮影:凸版印刷株式会社)



解体を終え表地と裏地が離れた「冬木小袖」

「冬木小袖」修理プロジェクト



臨時休館に伴う会員制度の有効期限延長について

新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館を、2021年4月25日(日)から5月31日(月)にかけて実施したことに伴い、会員制度の有効期限を延長しております。窓口での延長手続きは不要ですので、対象となる会員証および各種無料券を入口等でご提示ください。なお、賛助会につきましては、有効期限の延長は行いませんので、ご了承ください。

【対象】

有効期限2021年4月25日(日)～2022年5月30日(月)の「友の会」「メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス(4館共通)」の会員証をお持ちの方。その他、他館会員制度や、寄附特典等で配布された各種無料券も延長対象となります。

【延長期間】

会員証・総合文化展招待券・ミュージアムシアター無料観覧券(鑑賞チケット引換券)→元の有効期限から37日間(臨時休館日数分)延長
特別展観覧券→元の有効期限から3か月間延長

※詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

手ぬぐいをプレゼント

大好評の伊藤若冲自画自刻の「玄圃瑤げんぼよう華」を使用したポスターデザインの手ぬぐいを10名様にプレゼントします。締切は2022年3月10日(木)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

※手ぬぐいは1種類のみです。販売はしていません。



〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 広報室「ニュース12・1・2月号」プレゼント係

休館・閉室情報

12月14日(火)は電気設備等保守点検のため、臨時休館します。

12月26日(日)～2022年1月1日(土・祝)は休館します。

また、展示環境改善等のため、展示室の一部を以下の通り閉室します。

本館13室:12月23日(木)～25日(土)

東洋館1階～5階:12月6日(月)～25日(土)

平成館考古展示室:12月24日(金)～25日(土)

国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン 実践と展望」

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行により、対面での活動を制限された博物館は、さまざまなオンライン事業に取り組んできました。今年度は、昨年以来の実践を通して、ミュージアムにおけるオンライン事業についてどのような戦略を持ち、今後展開していくのか、海外及び国内各館の事例をもとに考えます。今年度も昨年度に引き続きオンラインで開催いたします。

日時:2022年1月29日(土) 13:30～16:30(予定)*休憩あり

開催方法:オンライン開催(Zoomウェビナー)

後日、アーカイブ配信を行います。詳細については当館ウェブサイトをご確認ください。

発表者(予定・敬称略):

ジューン・アレクサンダー(クリーブランド美術館)/ナネット・ブーメル(アムステルダム国立美術館)/土屋隆英(京都市京セラ美術館)/小島有紀子(文化財活用センター/東京国立博物館)

*同時通訳付

定員:500名(事前申込制、先着順)聴講無料

申込方法:当館ウェブサイトからお申込みください。

お問合せ:TEL03-3822-1111(代表) 総務課渉外開発担当

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『空海 祈りの形』2021年12月25日(土)まで

東寺を帝より託され、密教の教えの中心となる建物として講堂の建築に取りかかった弘法大師空海が、言葉では表現できない究極の教えを伝えるために作り上げた「祈りの形」とは。VRならではの視点で、仏像全21体からなる東寺講堂の立体曼荼羅を紐解きます。

料金:一般・大学生・高校生600円、小学生・中学生300円、未就学児、障がい者とその介護者各1名は無料(1作品/1回あたり)、別途入館料が必要です。開演時間までにチケットをお買い求めください(当日券のみ)。※所要時間 約35分です。

【予告】VR作品『国宝 松林図屏風— 乱世を生きた絵師・等伯』

2022年1月2日(日)～3月下旬

※演出・スケジュール・定員は、都合により変更となる場合がございます。

※詳細はウェブサイト(<http://www.toppan-vr.jp/mt/>)をご覧ください。



国際交流室による英語・中国語・韓国語のSNSアカウントを開設しました

各言語のSNSアカウントから、東京国立博物館のニュースや展示作品、所蔵品などを紹介しています。各SNSアカウントについてはQRコードからご確認できます。



12・1・2月の休館日情報

休 館 日	12月	1月	2月
	6日、13日、14日、20日、 26日～31日	1日、4日、11日、17日、 24日、31日	7日、14日、21日、28日

※開館時間、休館日等の最新情報は東京国立博物館ウェブサイトをご覧ください。

※1月3日(月)は臨時開館します。

◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金 一般1,000円、大学生500円

- 入館は事前予約(日時指定券)推奨となります。
[入館可能時間] 9:30～12:30、12:30～16:30、
16:30～20:30(夜間開館実施日のみ)
※滞在時間の制約はありません。

- 障がい者とその介護者1名は無料。
満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方は無料

詳細は東京国立博物館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、
Twitter、Instagram、メールマガジンで！

東京国立博物館ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>



【ご注意】 2021年4月1日(木)より、賛助会員制度及び会員制度を以下のように改定し、賛助会は名称及び特典、会員制度は年会費及び特典が変更となっております。詳細は当館ウェブサイトやチラシをご確認ください。なお、2021年3月31日(水)までに発行された会員証の特典は、有効期限内に限りご利用いただけます。

◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】 特別展内覧会へのご招待 など

【年 会 費】 〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円
〈個人〉プラチナ会員 100万円以上、ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

【申込方法】 会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込
詳細は担当までお問合せください。

◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。

友の会

発行から1年間有効 年会費:7,000円

【特 典】 東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

* 2021年4月以降にお申込みの方で、本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

【特 典】 東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能

東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

【特 典】 東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。*次号(3-5月号)より送付をご希望の場合、締切は2022年2月10日(木)です。

○申込方法

1. 会員受付窓口
当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます。(現金またはクレジットカード、電子マネー)。
2. ウェブサイト
専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替(振替用紙を送付))。

3. 郵便振替

- 振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生(4館共通のみ))、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。

加入者名:東京国立博物館会員制度

口座番号:00140-3-791791

- 友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。

- 振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

- 振替手数料はお客様負担となります。

- ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

*お申込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

○お問合せ

電話 03-3822-1111(代) / FAX 03-3821-9680

総務課渉外開発担当

*月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝日は除く)

表紙の名品

2021年12月・2022年1月・2月号

ばい か もんいんびつ 梅花文印櫃

2022年1月25日(火)～4月17日(日)

本館18室

近代金工の巨匠南山による、伝統技法を重んじた格調高い彫金

昔に比べれば使う機会は減ってきていますが、印鑑はいまだ生活の中で身近な文房具であり、時に重要な役目を担うことがあります。東アジアでは印鑑・印章文化は、悠久の歴史をもち、今につながっています。

ここにご紹介するのは、印鑑を収納するための櫃(箱)です。幅12・1cm、奥行16・5cm、総高15・8cmの大きさ



梅花文印櫃 清水南山作 昭和4年(1929)

不規則な斑の地模様は梅樹が黄金に照り映え神秘的な雰囲気を漂わせています

で、なぜ印櫃とわかるかという点、外箱に「鍍金梅花印櫃」「昭和四年十月 清水南山作」との墨書があるからです。短側面の一方は外せるようになっており、中には三段の抽斗が設けられています。櫃の上面4面はごくわずかに斜めの面取りが施され、中央には大きな吊金具が付いています。この面取りや中央の金具は、現代の印鑑箱にも共通す

表していますが、写実性・立体性の意図は抑制的です。むしろ日本古来のデザイン的な梅樹を、金銅板の彫金で表現しようとしているように見えます。不規則な斑の地模様はフラットな梅樹が黄金に照り映え、神秘的な雰囲気を漂わせています。

作者の清水南山(1875～1948)は彫金を得意とした金工家で、幾多の名品を

る点ですが、さかのぼれば江戸時代の『集古十種』所載の図や朝鮮時代の遺例など、印櫃では意外に古くから行われていた仕様のようにも思われます。

櫃の本体は斑の模様が特徴的な黒柿の材を用いて成形し、その表面には、大きく梅の樹枝と花の文様を透彫で表した銅製鍍金の板を鋳で打ち留めています。梅はただ切り透かすだけでなく、要所に細やかな彫金を加えレリーフ状に



一方の短側面を外した様子

今に残し、後進の指導にも熱心でした。昭和9年(1934)には帝室技芸員(美術工芸作家の保護と制作の奨励を目的として設けられた顕彰制度)に選出されています。南山は日本の古典的、伝統的な美術工芸品に親しみ、模作を手掛けたりもしました。そうした古典の学習と吸収を、斬新な作風へと昇華させた創作も多くあります。本作品もそのひとつに数えられるでしょうが、作者であってみれば自家薬籠中のものであった緻密多彩な彫金を、ここではあえて単一的、抑制的な表現に振った点が、かえって本作品の存在感の主張に一役買っているのです。(伊藤信二)